



第 48 号 平成 28 年 10 月 1 日

発行所／神山復生病院 〒412-0033御殿場市神山109 (Tel)0550-87-0004 (Fax)0550-87-5360  
(E-mail) [info@fukusei.jp](mailto:info@fukusei.jp) (ホームページ) <http://www.fukusei.jp/>

#### 《 理 念 》

神山復生病院は キリストの愛に基づいて 病める人も健やかな人も 神によって創られた人間として  
喜びも苦しみも共にしながら 一人ひとりの命を大切にし 希望をもって医療と福祉に献身します

#### 《 基本方針 》

- 1 患者様本位の医療  
患者様一人ひとりの生活を重視し、地域のニーズに応えるサービスを提供します
- 2 職員の人材育成  
優れた人材を育成するため、研修を充実し、専門・認定資格の取得を目指します
- 3 経営の安定化  
病床利用率を高め、病院の経営状態を安定化します



## リオ オリンピック感動をありがとう

事務部長 森田秀一郎

今夏(8月8日~21日)に開催されたリオデジャネイロオリンピックですが、スポーツ観戦が趣味の私にとってわくわくドキドキ、そして時差の関係で競技が行われる時間が日本時間の午前3時、4時の時もあり寝不足の14日間でした。その14日間で感じたことは、やはりスポーツマンシップとチームワークの素晴らしさです。もちろんメダル獲得、なかでも金メダル獲得という結果が一番いいのですが、体操の男子個人総合での銀メダルと銅メダル選手のコメント、陸上女子5000メートル予選での転倒した選手同士の助け合い、女子卓球の団体銅メダル獲得後の3選手のコメントなどここには載せきれないドラマがたくさんあり、毎日目頭を熱くしていました。次のオリンピックは東京で開催されます。4年後にはどんなドラマが待っているのか楽しみです。

さて、当院は来年4月から2つの新たな事業(訪問看護事業、小規模多機能居宅介護事業)の開始を予定しております。新たな事業については、具体的なことが決まりましたら、広報誌やホームページ等にて皆様にお知らせいたしますので、もうしばらくお待ち下さい。今後、医療業界は、医療療養病床の設置基準の見直しなどで当院を取り巻く状況は厳しくなりますが、職員全員で協力し合い、地域医療・介護に貢献できるよう頑張っていきます。4年後には当院もどのような病院になっているのか楽しみです。

## ふじのくに医療勤務環境改善 マネジメントシステムへの取り組み

質向上推進委員会 杉山美貴子



昨年11月に東部地区で開催された医療勤務環境改善研修に参加し、医療機関の働きやすい環境作りのために自部署は何をすべきか、ということを考える機会をいただきました。当院に限らず病院は、今も昔も変わらずに看護師あるいは看護補助者の不足問題や、やっと採用できた職員が早期に離職してしまうような現状があり、いきいきと長く働くことが出来る職場環境の整備が課題となっています。その様な状況のなかで、「当院ができることは何だろう?」、と現状分析と問題の洗い出しを行いました。その結果から、職場のコミュニケーションを円滑にするという課題をあげ、その課題解決の1つとして、「サンキューメッセージカード」に取り組む事にしました。日常の「ささやかなありがとう!」をメッセージカードに託し、相手に届けるというものです。いつもは言葉にせず過ぎてしまうことも、改めて言葉にして伝えることで相互理解に繋がると考えます。「ありがとう」の輪が広がることで、働きやすい職場に変化していく事を期待しています。みんなが書いた「ありがとう」を病院玄関に掲示しています。ご来院の際にはぜひご覧下さい。



## 看護部のユニフォームが新しくなりました!!

看護部 杉山美貴子



10月1日より看護部のユニフォームを全てリニューアルしました。4年毎に変更となるユニフォームですが、今回初めて英国のライフスタイルブランド「ローラ アシュレイ」を採用しました。このユニフォームに決定するまでには、職員の希望を取り、試着を繰り返しました。そして神山復生病院のイメージを大切にデザインへと絞り、法人のシスター方の意見も伺いながら決定しました。また、看護補助者の皆さんは動きやすさと快適さを重視したデザインを取り入れました。更に男性看護師は、さわやかさと男らしさを兼ね備えたデザインとなりました。今回モデルを務めてくれたのは、神山復生病院看護部の皆さんです。とてもステキだと思いませんか・・・?



## 災害看護地区研修会を受講して

外来 伏見こず枝



研修ではトリアージ・災害支援看護師の役割・搬送、三角巾法について学び、研修終了後は沼津の地区防災訓練に参加し、地域住民の方を対象に搬送・三角巾法の講習を行いました。参加した地域の方は、なんとか技術を習得しようと真剣に何度も繰り返し実践しており、私が思っていた以上に参加者の防災意識は高く驚きました。

近年、日本で発生した災害(巨大地震やそれに連動した地震・集中豪雨による洪水や土砂災害等)は大きな被害を与えこのような大規模な自然災害の多発が防災への意識を大きく変化させたのだと思います。

今回の研修に参加し、自分自身も防災活動への関心をもつことができました。関心をもつことで災害をイメージし、気づき、行動につながります。地域の防災力の向上は被害を軽減するためにとても重要です。私も災害時に少しでも効果的な活動が出来るように、自分の役割について必要な知識を身につける努力をしていきたいと思えます。



## 委員会紹介③ 労働安全衛生委員会

労働安全衛生委員会 平田 敦子



今回は労働安全衛生委員会についてご紹介します。この委員会は「労働安全衛生法」に基づいて、常勤職員が50人以上の職場では設置が義務づけられている委員会です。活動内容としまして、職員の健康管理を目的とした定期健康診断の実施や結果への対応、また禁煙や腰痛対策などの衛生教育を行っています。更に毎月1回職場巡回を実施し、職員の声を聞きながら、様々な改善活動を行っています。そして昨年の12月に義務化された職員のストレスチェックを11月に実施する予定です。働く人のメンタルヘルスの不調を防いで、いきいき働ける職場環境を整えていくことも、この委員会の大きな役割となっていきます。職員が健康でいきいき働くことで、復生病院を訪れて下さる皆様を元気にすることができるよう、労働安全衛生委員会メンバー一同、力を合わせ活動していきたいと思っております。

## 院内の像⑦ ～めぐみの森～

シスター 徳永美智子



つれづれの碑



かえるでの碑

神山復生病院のほぼ中央に位置している「めぐみの森」をご存知ですか。大きな銀杏の木が立っているところです。その隅の方にひっそりと建っているのが「つれづれの碑」です。「つれづれの友となりてもなぐさめよ ゆくことかたきわれに代わりて」これは1932年（昭和7年）に貞明皇后さまのお歌を賜り、1935年（昭和10年）には歌碑の除幕式が行われました。ちなみにこの歌碑は全国にある国立療養所にも建立されています。いかに皇室の方々がハンセン病の人々に心をかけて下さっていたことがわかる歌碑ですね。また、めぐみの森に植えられている楓の樹は、1933年（昭和8年）に昭憲皇太后さまのお誕生日にあたり、御所紅葉山の楓の実生をいただいたもので、「この実生をいつくしみ育てれば、楽しくもあり、ほどなく生長して枝を広げるようになるであろう。この楓が生長したあかつきには夏の若葉、秋の紅葉は錦をつくり、心をなごませてくれる…」と、皇太后さまのお心を入江皇太后大夫が説明されています。この楓を記念して、入江皇太后大夫が「かえるでの若葉のみかわ 紅葉にも 秋のみやまのめぐみあふがん」と復生病院に住む人びとの心を詠まれた碑も同じめぐみの森にあります。今もこの楓は83年の長きにわたって生き続け、秋になると色づいて私たちの目を楽しませてくれています。老木になりましたが、炎天下にも、風雨や雪にも負けないで復生病院を見守っています。以前は納涼祭や神学生との交流の場所として楓の樹の下で憩ったものでした。つれづれの碑が今の場所に移設されたのは平成13年頃の事でしょう。それまでは今の病院の正面に位置した聖堂の前の木立の中に立っていました。聖堂への行き帰りに歌碑の横を通ったのを思い出します。皆様が手に取って読んで下さっている広報誌「かえでの森」はこの「めぐみの森」にちなんだ名前です。次回は奉拝碑についてお話しいたしましょう。

## 今回のおすすめ



出版社 アスコム  
価格1,080円

私が尊敬してやまないホスピス医“小澤竹俊先生”の

最新本『今日が人生最後の日だと思って生きなさい』をご紹介します。

「人はどう生きれば良いか」「どういう死が満足できるものか」。小澤先生が、2800人の看取りを通し「後悔のない最後を迎える」ための生き方を教えて下さいます。人生の最後を迎える人達は、何を感じ、何を思い、何を残そうとするのか。そして、どうやって後世に自分の意志を繋いでいくのか。一方で、残される人達は何を思い、最後を迎える家族や大切な人のために何をしてあげられるのか。人生にとって大切な何かが見つかる一冊です。

(紹介者 地域連携・医療福祉相談室 和田昌子)



